

川崎市市民ミュージアム資料等評価懇談会（美術・文芸部門）会議録（摘録）

1 日 時 令和8年2月18日（水） 13時00分から

2 場 所 川崎市役所本庁舎復元棟2階202会議室

3 出席者

（1）委員 神山委員、細野委員

（2）事務局 川崎市市民ミュージアム  
古泉担当課長、山崎担当係長、前崎職員

4 次 第 1 開会  
2 懇談会概要説明  
3 今回収集を予定している作品について  
4 意見聴取（収集作品の評価額などについて）  
5 閉会

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 0名

**（次第一） 開会**

（会議進行等説明）

**（次第二） 懇談会概要説明、委員紹介**

（資料1、2-1、2-2について説明）

**（次第三） 今回収集を予定している作品について**

（資料3-1、3-2について説明）

**（次第四） 意見聴取（収集作品の評価額などについて）**

## 事務局

神山委員、細野委員より、今回収集予定の作品2点についてあらかじめ個々の評価額をいただいております。

山口幸士氏「Untitled」については両委員の評価額の平均である390万円を作品の評価額とさせていただきたいと存じますが、算定額の原因等をお聞かせいただけますでしょうか。

## 神山委員

今回は作品を実際に見ておらず、資料から判断したことを申し添えます。

まず作品をどう捉えたかを説明します。山口幸士氏は、作品を作成・発表する実績を築いているアーティストであり、本作品はテーマと表現が合致した良い作品だと考えます。

映像的なイメージ、スケートボードに乗っている身体感覚を油絵という完成に時間がかかる伝統的なメディアにより表現しており、時代性・時間性を併せ持っていると思います。また、出身地である川崎市というテーマを主体的に選択して描いており、その成果が十分に表れている作品だと感じました。工業地帯は負の遺産というイメージもありますが、本作品からは愛着のほうが大きく感じられ、市民にとっても共感を持たれるものと思います。

個展の開催から収蔵につながっているということについても、学芸活動の成果と評価できます。

以上のことを踏まえつつ、金額については、過去の事例や、山口幸士氏の他の作品の取引額を参考としました。同氏にとって美術館への収蔵はおそらく初めてであり、画家としてのキャリアの基礎となると思われること、他の美術館での購入に当たっての基準となる金額であることも考慮し、妥当性について精査する必要があることを念頭に置いて、この金額を導きました。

## 事務局

細野委員はいかがでしょう。

## 細野委員

山口幸士氏について、10年以上活動を見ていますが、俯瞰して川崎市を見るということをしており、工場での展示など、自分の街で自分の作品を見てもらうことが大事と考えている作家だと思います。

本作品は、普段同氏があまり描かない大型の作品であること、批評というよりは愛着が表れていることが特徴と考えます。今後多くの方の目にとまって、川崎の歴史を1つの絵から導き出しているということを感じてもらえたら、幸せなこ

とだと思えます。

金額については、今まで同氏の作品の価格を見ていたことから妥当と考えており、作品のサイズが大きいからというよりはこの作品に対する妥当な金額と考えています。

#### 事務局

それでは、今回収集を予定している作品につき、両委員の評価額の平均を各作品の評価額とさせていただき、後日、資料等収集懇談会に諮りまして収集の有無を決定してまいります。全体を通じて、両委員から何かご意見等ありますでしょうか。

#### 神山委員

カタログで確認はできるのですが、作品に関する資料に制作年と素材が載っておらず、美術品を精査する際に大切な情報なので、載せていただきたい。

#### (次第一五) 閉会